

春のころ、コラムにアポのない突
然の対応はしない云々と書いた。
で、どうなったか？

ある程度効き目はあったが、その
後、馬の耳に念仏なのか、相変わら
ずいけしゃあしゃとやってくる者が
いる。ある農機店のセールスはいつ
もアポなしで来るので、春に書いた
コラムのページをめくり、彼に手渡
して読むように促した。読み終わる
と彼は「自分には関係ありません
ね？」と笑いながら言いやがった。
「いつも仕事で来ているわけではな
いので、宮井さんがいなくなったら帰
っているんですよ」とまったく動じ
ない。大胆不敵なセールスマンだ。
ってことは、何か？ オレはあん
たの暇つぶしの相手なのか？

確かに夏になると冷たいドリンク
飲み放題、設定温度23℃のエアコン
の効いた農場の事務所に入りびた
り、アポなしでやってくる気持ちも
わからないではないが、北海道のい
たるところに販売網を持つ会社だけ
のことはあって、いろいろな農業情
報を交換できることは、こちらとし
てもありがたいことであり、人生持
ちつ持たれつなのだろう。

なかには、コラムを読んで寄り付
かなくなった農業関係者もいるかも
知れない。知れないと言うのは来な
くなつたので、ことの真相を聞き出

せないのだから、想像
で評価するしかないか
らだ。

私の職業は農産物の
生産業であって、消費
者の顔色をうかがいな
がら話をする必要がな
い。少なくとも農作物
の安全に関しては国家
から担保を受けた契約
者であり、国産のみが
素晴らしいと大ウソを
つくサービス業ではな
いと信じている。もし
て大豆、小麦の播種前
契約にも、アポなしに
対応することゝなどと
書いていないので、契
約違反に問われることはないだろう。

まっ、普通このようにならずうし
くもハンカクサイやつは、左のウイ
ンカーの切れた中古の軽自動車が大
好き、自動車の前と後ろのタイヤが
夏用、冬用別々、男の前ではいい喋
りをするがおねーちゃんの前では借
りてきた猫状態だったり、回転ずし
が一番安い105円の皿しかとらな
いとか、映画バイオ・ハザードの新
作になるかもしれない日本を舞台に
した戦後の政策で生き返ったゾンビ
の様にたくましく生きていた小作人
思想家だとか、自腹で米国に行った



Vol.54

STOP アポなし

宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたこと、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

こともなく、イングリッシ
ユ、ジャーマンやフレンチ
で「一発やりてー」と言え
ないのに米国よりもヨーロ
ッパの方が文化は進んでい
ると勘違いしているとか、
間違っても金髪ブルーアイ
をシラフの時に口説いたこ
とがないとか、業界のため
と言う建前よりも小銭と酒
代を浮かすためにその周辺
団体に興味を持つとか、ト
ドのつまり生産よりも前頭
葉農業に興味がある10年後

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

には他の産業に移行する連中とそのDNAを引き継ぐ子孫たちと話をすることは**時間の無駄**であるので、冒頭の**STOPアポなしの看板を事務所の前にコンクリートの支柱で固めること**になる。

STOPアポなし 効果なし?

そもそも、ことの始まりは肥料であった。肥料そのものよりもそれを配送するトラック会社の対応でかなりカチンと来たのだ。

肥料を配送する時は電話をしてくれていたのだが、留守の時にメッセージを残さないのでこの誰だか、まったくわからなかった。そこで、肥料会社には私の携帯に連絡するようお願いしたのだが……。

配送の前日に「明日持っていくます」と自宅に連絡が入り、こちらが「何時ころ?」と聞いても「午前中です」と言う。これでは午前中、ずーと農場の倉庫にいなければならないので、配送の朝、私の携帯に電話をするように指示をすることになるが、なぜか何度も自宅の電話にかけてくる。

何が問題かって? 問題大ありなのです。この様な時に限って自宅には誰もいないので、電話を取ることができない。天気が良ければ問題な

いが、基本的に肥料は雨に濡らしたくない。

運転手の判断で自由な時間帯にやって来て、農場には誰もいないので運転手は肥料会社に連絡して、担当者が私に「どこにいますか?」とトボケタことを言うのはマトモか?

自宅ではなく、私の携帯の方に直接、連絡を回してもらおうように再三再四に渡りお願いしたのだが、なぜか私の携帯にかけてこないで相変わらず自宅に電話するので、配送会社の連絡先から自宅の連絡先を削除するようにお願いした。

やっと携帯に電話がかかってくるようになる、この肥料会社と契約している配送会社が倒産してしまい、新しい配送会社から「農場はどこですか?」と連絡が来た。(潰れた原因はオレ?)

またそこでも、配送の時は「朝一に配送します」と前日に電話があり、やはり「当日、携帯に連絡ください」と伝え、その朝を迎えたが、やはり携帯への電話はなしで、シビレを切らしてこちらから連絡を取ると「11時ころになります」と返事が来た。

ふざけるな! ヒール宮井様を4時間も待たせやがって、時給に直したらいくらだと思っているんだ? と、言っただけでいいが、もし相手の給料の方が間違っただけで高いとケンカに

ならないので、別な作戦を考えることにした。

たぶん、本州の生産者には理解できないかもしれませんが、500kgのフレコンで80t近く配送してもらうことになるので、その肥料の種類ごとに置く場所を紙切れ一枚で指示するのは現実的ではないので、どうしてもフォークリフトの運転手をかねて荷降ろしを手伝うことになるのは、お互いの負担を軽減することとなると理解しているので、もっとコミユニケーションを大切にしようと思案しているのである。

それに比べ、米国人の電話の使い方を見ていると留守電の場合、ほとんどの利用者はメッセージを残している様に見受けられる。自分の場合、米国内にいる時に時差の関係で携帯は日本の昼の時間帯には切ることになるが、マトモにメッセージが残っているのは10本に1本程度である。

ここで言いたい。そんな電話の使い方を知らないハンカクサイ連中に一言「あなたの携帯から私の番号を削除しなさい!」。

よく考えてみると、今年STOPアポなしと宣言してから、やたらとこのサインを無視する訪問者が多い様だ。もしかしてヒール宮井は試されてるのだろうか? と、言えば聞かぬが、実際の訪問者も

つとシタタカなのであろう。

自宅の周りにしか農地がない生産者だとアポなしも対応できるのであろうが、私に用事があることになるとなるのだから、私がどのくらいの経営をしているのか知っているはずだ。つまり、アポなしだと面積にある程度比例して会う機会が少なくなることを理解しようとするのはなぜだ?

このように完璧にアポなしを実行するのは国家公務員の地方の出身機関の者であったり、地方行政に携わる役人様が多い。こちらがお伺いする時は朝の6時には行かないで始業時間帯に行く常識はあるのだが、相手は土日、休日には来ないで必ずアポなしでやって来て、会えなかった時は連絡をくれよ、と勘違い目線を放っている。これには想像をたくましく働かせなくても、簡単に理解できる。我々、生産者や一般市民がやはり同じようにアポなしで彼ら、彼女たちの所に行くので、相手も同じ行動パターンを取ってしまうことは同じ穴のムジナなのか? 農業とサービスマンとでは働く時間帯が違う場合が多いのだから、相手の行動パターンを理解いたしましょう。収入の2/3が交付金の積み重ねのスーパー特別国家公務員が言うのだから間違いはない。